第５回 美術鑑賞講座 ―
日本美術史（2）　日本画壇の成立

８月１３日／講師：真鍋宗平氏

今までと同じく、１枚１枚のスライドを見せていただきながら、典型的な「日本画」の世界について、説明いただきました。

日本画というには、明治以後に成立した水彩画であり、それに先行する大和絵、屏風絵、狩野派、琳派、浮世絵などの江戸期までに熟成された日本の伝統的な画法を素材にしつつ、新しい画材や絵の具の開発の上に立って形成されたのが日本画の世界ということのようです。

明治の特徴としては、第１回目の講座で紹介されたような西洋画が流入してきますが、これとの格闘の中で「日本画」という独特のジャンルを意識されていったようです。そうした地位の確立に欠かせない人としてフェノロサ、岡倉天心などの活動にも触れていただきました。フェノロサについては日本文化の発掘に貢献したということですが、同時に画商として、多くの美術品を流出させた両面があるとのこと。

また、西洋画と同様、貧困と戦争の中での屈折、格差が創作態度に影響を与えている、ということもわかる講義でした。

私は生け花をやっていますが、この世界でも、歴史は、たびたび、ひも解いていますが、絵画の世界でも時代性にちなんで歩んできたことがわかりました。
構図の取り方、色彩の考え方、作品の表を見るだけでなく、その裏にひそむ、内表をいかに表現するかというようなことが絵画も生け花も同じだとわかりました。
私はこの講座を選んでとてもよかったと思います。楽しかったです。

西洋美術史から日本美術史に至り、いよいよ現代に近づいてきました。体系的に講義いただき、知識にも少し肉がついてきたように思います。
ゼイ肉にならないよう、自分でも勉強して筋肉に変えていきたいと思います。

日本画が明治以降に成立したことに驚いた。
その中心が歴史講座で学んだ岡倉天心だということに,また驚き。

第５回 健康講座 ―
代替医療とリラクゼーション

９月２８日／講師：芦田信之氏

代替療法とは、「現代西洋医学領域においては科学的未検証および臨床未応用の医学医療体系の総称」と定義されており、この分野には、伝統と経験からそれなりの信ぴょう性を持つものから、ほとんど「ニセ科学」と呼んでいいようなものまでいろいろなレベルでの代替療法があり、この一つ一つのどこに着眼し評価していくべきか、という、やはり難しいけれど興味は尽きない講義でした。

代替医療、健康情報についての身近な問題、サプリメントの話や疑似科学とか、講義を受けて気付くことがあり、勉強になりました。
テレビや新聞でも健康に関する情報は多々あふれており、今まで信じてきたものが実は違った（たとえば、1日 1 万歩歩くのが歩き過ぎで 8,000 歩くらいがベストであるとか）ということもあり、常に情報をしっかりとらえ自分の健康管理に役立てたいと思います。

近い将来の話でしたが、少々高度な話でした。代替医療とはとても深い話ですネ。私自身は日頃の運動食事等で体温を上げ、免疫力を高める事位です。

専門的な話が多く、難しい内容であった。資料も詳しいけれど一般人には、とびつきにくい感じであった。家への帰りじっくりと資料を見直し復習したいと思います

京都社会人大学校

北近畿校 通信

第９号　2018年10月
北近畿校運営委員会
事務局発行

「この講座を選んで とてもよかった!」

と言ってもらえて、とても良かった！

猛暑に台風、北海道でも大きな地震。この北近畿校の講座も自然の影響を受け、台風で日程変更せざるを得ない日もあって、9 月もバタバタしながらの運営です。

複数の講座を受講している方がいらっしゃいますが、歴史講座と美術鑑賞講座のWの方が何人かあり、「歴史で学んだ人物が美術講座でも出てきて、驚き、面白い」という感想が複数ありました。バラバラだった知識のパズルが、カチッとはまったような感じかな、と受け止めました。

また、「この講座を選んでとてもよかった」という感想をいただきました。あと 3 回、存分に楽しんでいただきたいと思います。

自然科学講座では、未知で不思議な世界・宇宙の話に、「宇宙講座」に昇格？させてくれんかなあ…という声がたくさん。さて･･･

資料の文字が小さいと辛い方が多いようです。先生方、「伝えたい！」と思うことがたくさんおありでしょうが、そこのところもよろしく！　運営委員会でも拡大コピーなど、できるところは対応したいと思います。

「すぐに感想を書く時間がありませんが…」

⇒ ゆっくり書きたい方は、あとでFAXで送ってください

「限られた時間の中で感想を書くことも少々無理がありますので、次回の講座で回収されるようにしてはいかがでしょうか」というご提案をいただきました。そうですよね。短い時間で長文を書いてくださる方もおられて感心していましたが、大変ですよね、確かに。

ただ、翌月には前回の様子やみなさんの声をお知らせしたい。これは、前回を都合で欠席された方にその概要をお知らせする、という面もあり、当面このペースを守っていきたいと考えています。

概要と感想をセットでお届けするにはどうしたらいいか…　事務局で相談した結果、すぐには書けなくてもお家でゆっくり書いていただいた感想などを、ＦＡＸでも受け付けることにしました。ＦＡＸのない方にはこれまでと同じ対応になってしまいますが、しばらくこの方法を続けてみたいと思います。ご理解ご協力をお願いします。

ＦＡＸ送信先は、感想用紙に記しています。

「やってみよかな」
声かけてくださいね！

引き続き
新　運営委員さん 募集中!

9月の各講座の概要と、ひとこと感想から（感想は一部を抜粋したものもあります ご了承ください）

第５回 時事問題講座 ―
憲法問題②憲法９条と日本の安全保障

９月 18 日／講師：松竹伸幸氏

９月４日が台風２１号の直撃で１８日に変更を余儀なくされ、いつもより少なめの出席でしたが、自民党の総裁選で憲法９条改憲が堂々と語られる時局でタイムリーな講座となりました。

憲法問題の第２弾「憲法９条と日本の安全保障」をテーマに、かもがわ出版編集長で「自衛隊を生かす会」の事務局長、日本平和学会の会員としても活躍されている松竹信幸氏から、氏の編集や著書を中心に、自衛隊や自衛隊員と憲法９条が共存するリアルな実態を聞き、憲法９条のもとでの自衛隊のあり方、また、自衛隊の本質、日本の防衛政策の必要性、現実の情勢と国民の意識などについて講義を受けました。

「９条の会」には、「自衛隊は違憲」「専守防衛」「海外でも人を殺さない」の立場の人が共存しながら一致してたたかっていること。護憲と改憲の世論は半々だが自衛隊の必要性は８割の世論があること。また、政府がなし崩し的に日米共同演習や海外派兵を行っても憲法９条があるから国民や世界の人命を守れること。北朝鮮や尖閣諸島などの現実に対応する防衛政策は何か。現実が変われば防衛政策は必要ないのではないか。などなど憲法９条の大切さと自衛隊のあり方について深く学んだ講義でした。

この問題は難しい。これがいいという解決策が見いだせないと、話を聞いていても感じた。（中略）自衛隊の予算を見ると、これが他の分野にまわるとどれぐらいいいだろうと思うけれど、ここまで存在してきたものに安易に判断はくだせない。（後略）

護憲、改憲。首相は改憲との法案を出すようだが、今日の話にもあったように、45対55のような話で、どちらの派も100点満点などなりえない、せいぜい2分割したときの多数対少数ではないでしょうか。その中で少し少数だと欠陥があるとか、多数が賛成しているから欠陥がないとは言えないと思うが…。（後略）

第５回 歴史講座 ―
与謝野晶子「君死にたまふこと勿れ」

９月 12 日／講師：井口和起氏

今回の講座は、８回の講座の中で唯一の女性の登場です。「君死にたまふこと勿れ」があまりにも有名なため、与謝野晶子は反戦論者として見られていますが、必ずしもそうではない一面があるということも学びました。

たとえば、後年 1932 年には「紅顔の死」では、中国の青年を死に追いやったとして日本と交戦している中国の軍閥を批判していますが、戦争自体を否定しているわけではありません。晶子は政治家に対しては鋭く批判しますが、戦争を生む当時の体制については批判していません。このありようは、明治の人の多くが持っていた感情のようです。

国家が発展途中や他国と緊張状態である時は、国民の精神も高揚しがちになり、ちょっと立ち止まって考えようということができにくくなります。そのような中で晶子の主張には、ゆれ動く巾が大きいと講義されていましたが、国民や国家が成長していく過程であることを考えると、今の時代から見れば理解できます。成長過程から見ると、福沢諭吉や岡倉天心など有識者がアジアの人々を対等の民と見なしていなかったことを考えれば、晶子が反戦を貫けなかったのもうなずけます。

次回の講座の資料を事前に目を通すことができてありがたいです。いつも思うことは、大量の資料を見て、2 時間で大丈夫かと心配しても、当日はわかりやすく丁度 2 時間で解説していただき、感心しながら、講師井口先生に感謝しています。第８回まで欠席しないよう体調管理をしながら、楽しみにしています。

与謝野晶子の歌を初めてじっくり読んだ。そして、晶子の歌がのちに本当につまらないものになっていくのに唖然とした。「君死にたまふことなかれ」は、デビューした頃の晶子の生活に根ざした感覚の延長にあるものだと思う。

あまりにも有名な「君死にたまふことなかれ」の一人歩き。評価はいろいろあるとは少々知ってはいましたが、その複雑さ、思想の推移、評価の本質…等々について知る機会となりました。

第５回 自然科学講座 ―
星はなぜ青く見えるのか　宇宙の話

９月 20 日／富野暉一郎氏

富野暉一郎先生に御紹介いただいた、人工衛星ハッブル望遠鏡.等が捉えた宇宙の姿、とりわけ、すばるや天の川銀河で星が誕生した姿や星の残骸は驚くほど美しい姿でした。

そして空気の影響のない宇宙から観察を続ける宇宙の案内役・人工衛星ハッブル望遠鏡の役割がよく分かりました。その、ハッブル望遠鏡の打ち上げ後に、重力の影響を考慮していなかったため、５年近く運用できなかった事実は驚きでした。

さて、天文学の基本となる時間軸と空間の広がり。先生からは、「１ｃｍから１０倍ずつ大きなものを考える」手法が提起されました。「どんなこと？？？」と思いながら拝聴していたら、２８乗で宇宙の果てまで。どこまでも宇宙の広がり、雄大さ、美しさを感じさせていただいた２時間でした。

宇宙を28という数にするということで、少しだけ身近に感じることができた。本当に気が遠くなりそうな時間軸の中で、地球の自分自身のちっぽけさを実感。宇宙にあこがれてしまうのだと思った。来年は、宇宙の話シリーズでお願いします。

とても興味深い内容でしたが、まだまだ「?」のところがあるので、もっとシリーズで受講したかったです。

「星はなぜ青く見えるのか宇宙の話」のテーマに興味を持ち、聴講しました。宇宙って、無限の広がりで、天を見あげるとスーッと吸い込まれて気が遠くなりそうです。10×28でとじ込めて考えることを学びました。しかし、講義を聞いてもピンときません。孫にもどのように伝えるか難しいです。